



スマートフォン

ぼくの願いはスマートフォンになることです。なぜかという、ぼくのパパとママはスマートフォンが大好きだから。パパとママはスマートフォンだけを気にして、ぼくのことを忘れることがあります。

パパは、仕事が終わって疲れて帰って来たとき、ぼくとではなく、スマートフォンと時間を過ごします。パパとママが仕事をしているときにスマートフォンが鳴り出したら、1回鳴っただけですぐに電話に出ます。ぼくが泣いているときは、そんな風にしてくれないのに・・・。

パパとママは、ぼくとではなく、スマートフォンを使ってゲームで遊んでいます。スマートフォンで誰かと会話しているとき、ぼくが伝えたいことがあったとしても、話を聞いてくれません。

だから、ぼくの願いはスマートフォンになることです。

シンガポールのある少年が書いた上の作文が話題を呼び、それをもとに日本でも絵本ができました。のびみ著「ママのスマホになりたい」(WAVE 出版)です。

子どもは母親が大好きです。ですから、スマホに没頭している母親に話しかけることを子ども心にもためらってしまいます。思い切って呼んでも生返事。なのに、スマホの着信があった時は、何を差し置いても画面に向かう母。それを子どもは小さな胸で敏感に感じてしまっているのでしょうか。切ない光景です。



今や、スマホ漬けによる育児放棄は「新たな虐待」とまで言われるほどになっています。外国では、赤ちゃんをお風呂に入れている最中にスマホに着信があり、一瞬（のつもりで）その場を離れた間に赤ちゃんが溺死してしまったという悲しい事故もあったそうです。

アップル社を設立したスティーブ・ジョブズ氏。スマホやタブレット端末を世界中に広めた仕掛け人の彼でさえ、家では意外にもこんな父親でした。

「私の子どもたちは iPad をまだ使ったことがないのです。私は、子どもたちにタブレットを一切触らせていません。スクリーンタイム（画面を見つめる時間）よりもフェイストゥフェイスの家族の会話を優先しているからです。毎晩決まって長いテーブルで夕食をとり、本や歴史や様々なトピックについて話し合っています。家族のだれ一人として iPad やコンピュータを使いません。」

大人のスマホ所持率が飽和状態になる中で、企業の販売戦略は、ターゲットを高齢者と子どもに移しているそうです。大人があんなに夢中になるスマホを子どもも欲しがらないうちがありません。すでに、子どものスマホ所持率は急激に低年齢化してきており、それに伴い先日の大阪市小6女子児童の誘拐事件に代表されるような犯罪、また、友達同士のいじめやトラブルが後を絶ちません。スマホが幼少期の子どもに与える影響については、いずれ機会をとらえて紙面をいただく予定です。

冒頭に紹介した絵本は、当分の間、園の絵本の部屋に置いておきます。どうぞ自由にご覧ください。

これから年末年始にかけて、子どもはプレゼントやお年玉をもらう機会があります。子どもが喜ぶ顔を見るのは、親として至福のひとときです。子どもにとって本当に大切な贈り物や時間を、大人の判断で決めてあげてください。（園長 寺本 明生）

